

高度脳卒中センター教授就任のご挨拶

高度脳卒中センター センター長 教授 はやし けんたろう
林 健太郎



この度、島根大学医学部附属病院に新設されました高度脳卒中センターを担当させていただきます 林 健太郎と申します。熊本県出身で、長崎大学を卒業しました。学生時代は陸上競技部に所属し、ハードルを専門にしていました。今でも駅伝やマラソンの観戦は大好きで、出雲市では大学駅伝があるのを楽しみにして参りました。残念ながら今年中止になってしまいましたが、来年に期待したいと思います。卒業後は脳神経外科の道に進み、大学院では脳血管を研究し、米国ケンタッキー大学に留学しました。帰国後は長崎大学で脳血管内治療を中心に脳卒中の診療を担当し、脳神経内科と共に脳卒中ケアユニットを立ち上げ、脳卒中センターに発展させることができました。その後、佐世保市総合医療センターに勤務し、脳腫瘍や頭部外傷などを含めて広く脳神経外科の診療に携わってきました。今回、島根大学に高度脳卒中センターが開設されることは全国的にも画期的なことで、その担当教授に選んでいただいたことは身に余る光栄です。近年、脳血管内治療の進歩は目覚ましいものがあり、特に脳梗塞急性期の治療では、閉塞した血管にカテーテルを進めて血栓を回収する方法が極めて有効になってきています。発症から再開通までの時間が勝負となり、速やかな診断と救急搬送が重要です。長崎市や佐世保市では地域の先生方や救急隊を訪ねて、判断のポイントをご説明して参りましたので、ぜひ島根県でも皆様の施設にお伺いして、最近の脳卒中診療についてご紹介させていただきたいと思っております。感染対策を徹底した上で、手弁当で参りますので、お気軽にご連絡下さい（連絡先：医療サービス課 TEL：0853-20-2699、リモートでの講習も承ります）。また、脳卒中の患者さんは後遺症がのこることも多く、その後のリハビリテーションや療養、社会的サポートも大切です。地域の先生方にお世話になることも多く、連携を深めて地域ぐるみの脳卒中診療を目指してゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

この度、島根大学医学部附属病院に新設されました高度脳卒中センターを担当させていただきます 林 健太郎と申します。熊本県出身で、長崎大学を卒業しました。学生時代は陸上競技部に所属し、ハードルを専門にしていました。今でも駅伝やマラソンの観戦は大好きで、出雲市では大学駅伝があるのを楽しみにして参りました。残念ながら今年中止になってしまいましたが、来年に期待したいと思います。卒業後は脳神経外科の道に進み、大学院では脳血管を研究し、米国ケンタッキー大学に留学しました。帰国後は長崎大学で脳血管内治療を中心に脳卒中の診療を担当し、脳神経内科と共に脳卒中ケアユニットを立ち上げ、脳卒中センターに発展させることができました。その後、佐世保市総合医療センターに勤務し、脳腫瘍や頭部外傷などを含めて広く脳神経外科の診療に携わってきました。今回、島根大学に高度脳卒中センターが開設されることは全国的にも画期的なことで、その担当教授に選んでいただいたことは身に余る光栄です。近年、脳血管内治療の進歩は目覚ましいものがあり、特に脳梗塞急性期の治療では、閉塞した血管にカテーテルを進めて血栓を回収する方法が極めて有効になってきています。発症から再開通までの時間が勝負となり、速やかな診断と救急搬送が重要です。長崎市や佐世保市では地域の先生方や救急隊を訪ねて、判断のポイントをご説明して参りましたので、ぜひ島根県でも皆様の施設にお伺いして、最近の脳卒中診療についてご紹介させていただきたいと思っております。感染対策を徹底した上で、手弁当で参りますので、お気軽にご連絡下さい（連絡先：医療サービス課 TEL：0853-20-2699、リモートでの講習も承ります）。また、脳卒中の患者さんは後遺症がのこることも多く、その後のリハビリテーションや療養、社会的サポートも大切です。地域の先生方にお世話になることも多く、連携を深めて地域ぐるみの脳卒中診療を目指してゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

10月15日～11月14日

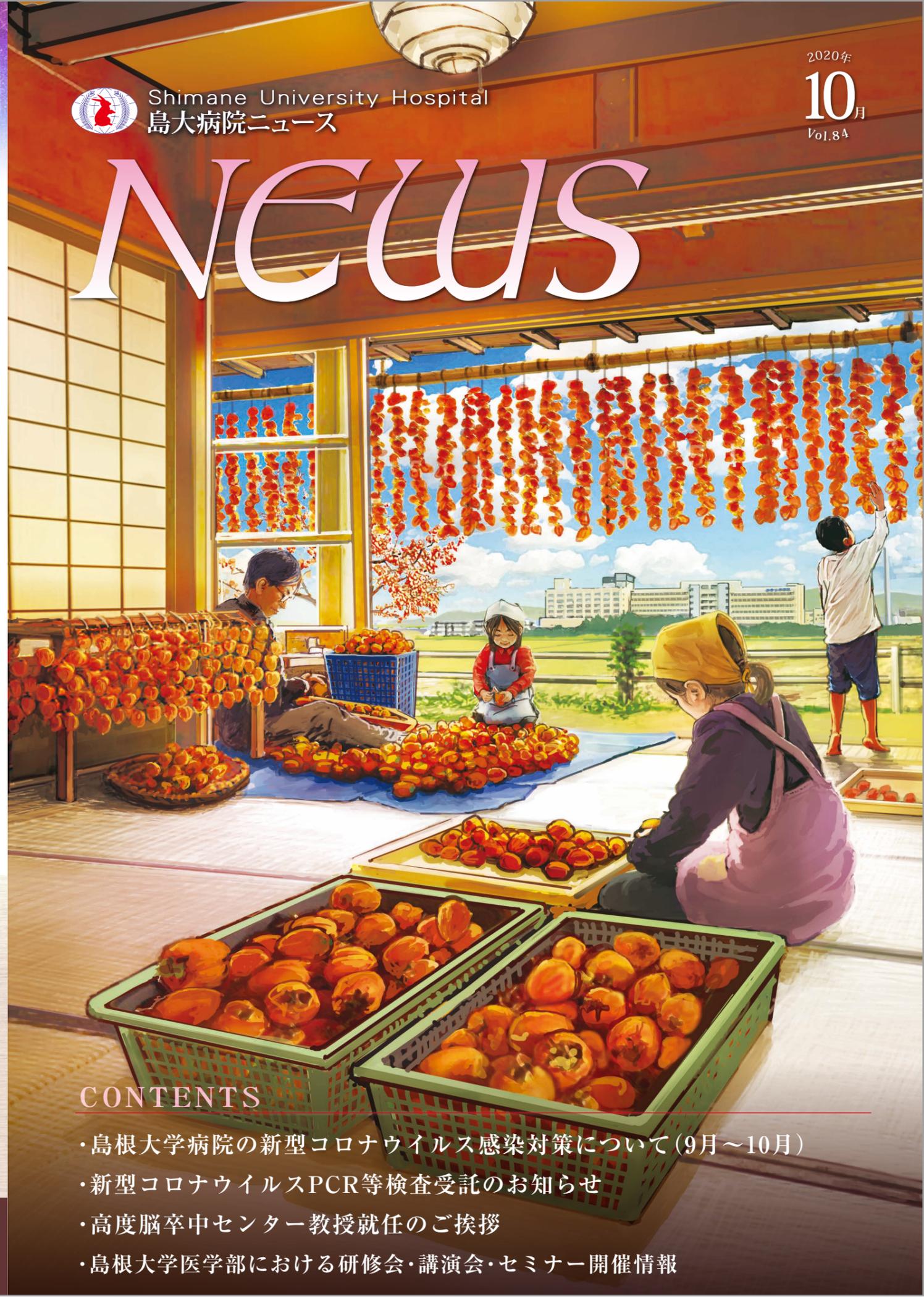
対象者： **一般** 一般市民 **医療** 医療関係者 **本学** 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
10/24(土) 13:00～15:20	第30回 島根県がん登録研修会	オンライン配信	医療	島根大学医学部附属病院 国立病院機構 浜田医療センター 島根県健康福祉部健康推進課 島根県がん診療ネットワーク協議会がん登録部会実務担当者研究会
10/25(日) 10:00～16:00	薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー Advance	外来・中央診療棟 2階 クリニカルスキルアップセンター	医療	島根大学医学部附属病院 クリニカルスキルアップセンター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

- ・島根大学病院の新型コロナウイルス感染対策について(9月～10月)
- ・新型コロナウイルスPCR等検査受託のお知らせ
- ・高度脳卒中センター教授就任のご挨拶
- ・島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

島根大学病院の 新型コロナウイルス感染対策について

9月～10月

病院長 井川 幹夫
いかわ みきお

東京都の新型コロナウイルスの感染状況を分析する「モニタリング会議」の9月17日付の報道では、新たな感染や感染経路不明の割合が増加に転じており、今後感染の急速な拡大が危惧されるとの分析結果が公表され、厳重な警戒が必要と指摘されています。一方で、島根県内の新型コロナウイルス感染症は、8月5日発生の137例目以降、9月下旬に新規症例3例の報告がありました。当院玄関では複数の患者さんの検温を同時に行えるサーモカメラを設置して混雑解消を図るとともに救命救急センターの入り口にもサーモカメラを設置し、さらに外来受付では非接触型の検温を行っています。面会については原則全面禁止としていましたが、個室は9月7日より主治医が面会を許可している患者さんに限定して、緩和、4人部屋については、これまで通り面会制限を継続し、患者さん、ご家族にはWi-Fi利用によるオンライン面会で我慢していただいています。

8月に全国医学部長病院長会議から新型コロナウイルス感染症に関する大学病院の経営状況調査結果(4月～6月)が報告されています。全国の国立・公立・私立の136大学病院が調査対象で、外来患者数、入院患者数、手術件数、医業収入等について前年度との比較が全大学病院まとめて示され、それぞれ-18.8%、-19.9%、-21.4%、-10.04%でした。同期間の当院の数値は-7.3%、-10.5%、+1.0%、-2.7%で、手術件数は微増、マイナス幅は全大学病院の平均値を下回っていますが、大学病院の使命である高度医療の実施が妨げられたのは誠に残念です。新型コロナウイルス感染の収束が見通せず、「withコロナ」環境で診療する上で、PCR等の検査を有効活用することが重要となります。当院に設置したCOVID-19検査センターにおいては、県内の病院、診療所から、手術前、侵襲度・感染リスクが高い処置・検査、職員の出張、職場環境の管理、ビジネス目的のPCR等の検査を受託しています。詳細については、当院のホームページのバナー、PCR等検査の委受託について(図)からご覧ください。今冬はインフルエンザ感染症と新型コロナウイルス感染症の同時流行が危惧されていることから、発熱患者に対応する上で、当院のCOVID-19検査センターはお役に立てると存じます。

図



PCR等検査の委受託について

当院は高度医療の実施を通じて、さらにPCR等検査の受託により地域に貢献したいと考えております。地域の医療機関の皆様には、今後ともご支援・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスPCR等検査受託のお知らせ

COVID-19検査センター センター長 准教授 矢野 彰三
やの しょうぞう

COVID-19検査センターでは、9月1日より県内医療機関からのPCR等検査の委受託に関する業務を行っています。新型コロナウイルスPCR等検査(唾液検体)の対象としては、手術前患者、県外からの患者、妊婦、感染流行地域に出張後の方など無症状者(行政外検査)に加えて、医師が感染を疑った場合等(保険診療)も含まれます。概要は以下のとおりです。迅速・正確な検査の実施に加え、リーズナブルな価格設定にしておりますので、当センターの受託検査を是非ご利用ください。

- ① お申し込みは、下記 COVID-19 検査センターへメールでお願い致します。
- ② 県内医療機関からのご依頼に基づき、委受託検査契約を締結します。
- ③ 検体採取及び梱包に必要な容器を、当院からゆうパック(元払)にて送付します。
- ④ 検体は、当院検査部 COVID-19 検査センターあてに、チルドゆうパックで送付または直接当院に持ち込むことができます。詳しくは、当院 HP、または契約後お送りする「PCR等検査の委受託について」をご参照ください。
- ⑤ 届いた検体を検査し、メールにて検査結果を通知致します。
- ⑥ 受託検査料は、1検体あたり13,567円(税込)+送料実費です。実施した検査1月分を取りまとめ、翌月請求致します。

問合せ先 COVID-19検査センター TEL:080-7539-8296
メールアドレス: PCRcenter@med.shimane-u.ac.jp

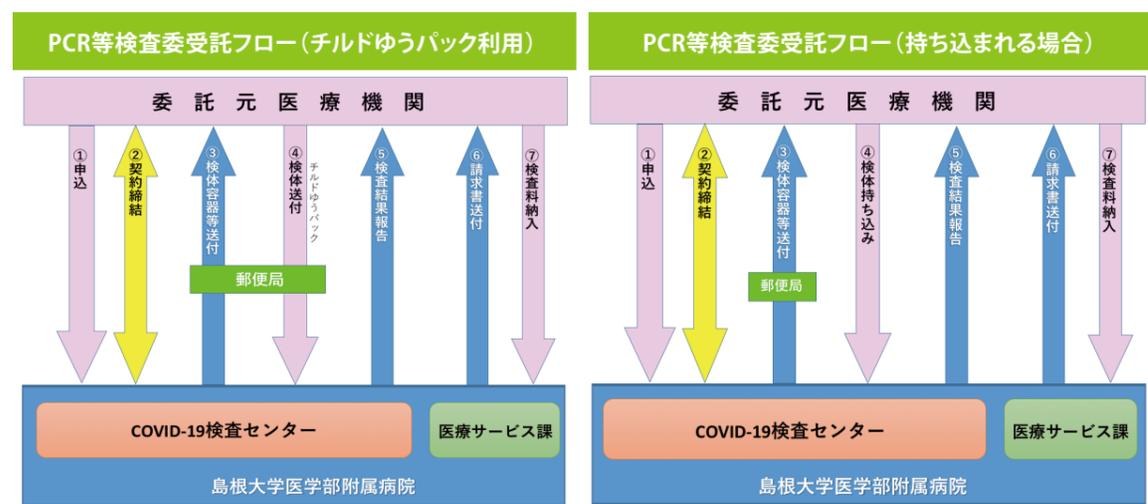


図1. PCR検査等委受託フロー(左:チルドゆうパック利用、右:持ち込まれる場合)



島大病院ニュース 2020年10月

お知らせ



県外から当院受診予定の患者さんへ 院内における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策ご協力をお願い

総務課

島根県外からの患者さんを当院へご紹介いただくにあたりましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、以下の通りご協力を賜りますようお願い申し上げます。

● 外来患者さんをご紹介いただく場合

受診前 10 日間、感染リスクを避ける生活を送りいただくよう、当該患者さんへお伝え頂けると幸甚に存じます。

当院受診の際、問診後、担当医が必要と判断すれば無料の PCR 等検査を受検いただき、結果が出るまでは、予め準備した別室で待機していただきます。

● 入院患者さんをご紹介いただく場合

受診前 10 日間、感染リスクを避ける生活を送りいただくよう、当該患者さんへお伝え頂けると幸甚に存じます。

鳥取県にお住まい以外の方は、入院当日に無料の PCR 検査を受検いただき、結果が出るまでは、個室入院していただきます。

検査結果が陰性の場合はご希望により大部屋にお移りいただけます。

陽性の場合は、専用病室での療養をお願い致します。

※ご不明な点がございましたら、担当医へご連絡をお願い致します。



2020年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2020年10月

ご報告



2020年10月から2021年3月までの 周産期診療体制の変更

周産期母子医療センター センター長 准教授
小児科 診療科長 教授
産科 診療科長 教授

かなさき はるひこ
金崎 春彦
たけたに たけし
竹谷 健
きよう さとる
京 哲

平素より周産期医療に関して、格段のご配慮いただき、ありがとうございます。6月末に島根県から通知があったかと思いますが、高度化する周産期医療を島根県内で維持・発展させることを目的として、2021年4月より島根大学医学部附属病院が現在の地域周産期母子医療センターから総合周産期母子医療センターに移行することとなりました。そこで、これまで以上に高度な医療を提供するために、産科外来およびNICU/GCUを改築することとなりました。その改築工事期間中、周産期診療を一部変更させていただきたく存じます。具体的には、以下の通り変更となりますので、ご理解ご協力のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

産科

●産科に関しての母体搬送及び紹介受け入れは継続します。ただし、確実に分娩になりそうな症例など急を要す症例は児の入院が困難であることが予測されます。このような症例に関しましても当院が搬送先を探したうえで搬送業務を請け負うこともあります。胎児異常の診断に関しても、診断の上適切な医療機関への紹介は継続します。

NICU/GCU

●2020年10月から2021年3月までNICU/GCUを閉鎖します。

この間の新生児の相談は、それぞれの地域の医療機関（島根県立中央病院、松江赤十字病院、益田赤十字病院、浜田医療センターなど）にご相談をお願いします。ただし、搬送先が見つからないなどお困りの場合は、搬送のお手伝いをさせていただきますのでご連絡をお願いします。

●新生児の小児外科疾患および小児循環器疾患に関して、それぞれ小児外科診療科長・久守孝司、小児循環器疾患担当・安田謙二 / 中嶋滋記にご相談頂ければ、対応させていただきます。



2020年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



ISO14001 (環境マネジメントシステム)の更新審査を受審しました

医学部附属病院 E M S 対応委員会委員長 こだま たつお 児玉 達夫

島根大学では、環境に関する国際標準規格である ISO14001 の認証を、2006 年 3 月に松江キャンパスで取得し、2008 年 3 月に出雲キャンパスを含めた拡大認証を取得しました。2012 年以降は出雲キャンパス単独で認証を更新し、2018 年 5 月には ISO14001 / 2015 の規格要求事項に適合していると認められました。学内組織として EMS 対応委員会を設置し、環境教育・環境研究、エネルギー、生活系、実験系、診療系の各作業部会に分かれ、目的・目標を設定し計画を立て、活動に取り組んでいます。さらに、当院内で取り組んでいる医療安全や感染対策などの業務と環境管理活動をリンクして行い、安全安心な医療環境の確立や感染性廃棄物の適切な管理を行っています。

今年は新型コロナウイルス感染症発生の状況下、新たな 3ヶ年の始まりの年として、去る 8 月 25 日～8 月 28 日に認証機関 (JQA: 一般財団法人日本品質保証機構) によるオンラインでの更新審査を受審したところ、16 件がグッドポイントとして評価されました。その中でも代表的な、附属病院の取り組み 3 件について紹介します。1 つ目は、材料部において 2014 年より段階的に各病棟で個別購入・洗浄していた器材を 2019 年度に材料部での集中洗浄に完全移行したことで経費節減や看護業務に充てる時間が増える等環境負荷低減に繋がっていること、2 つ目は約 10 年前から ME センタースタッフに透析機器の点検ライセンス取得をすることにより、点検費用を節減するとともに COVID-19 の影響下でも外注業者に頼らず、定期点検が実施できたことにより業務の停滞を招くことがなかったこと、3 つ目は B 病棟 8 階で、車椅子とストレッチャー置場を従来の通路から変更することにより、手すりを利用して移動される患者さんの転倒事故の発生防止を行い、安全と安心を確保した活動を実施していることが評価されました。そのほか、改善の機会 11 件を外部審査員より指摘頂きましたので、今後の活動の推進に活かしていきます。



ご報告



2020年7月豪雨被災地へのDMAT災害派遣について

救命救急センター 助教 たかお さとし 高尾 聡

2020 年 7 月に豪雨災害が発生し九州地方を中心に多くの被害をもたらしました。2 年前に発生した 2018 年 7 月豪雨災害に続き、島根県の要請を受け、島根大学医学部附属病院 DMAT は、熊本県球磨村へ 7 月 7 日から 11 日まで災害支援をして参りましたので御報告させていただきます。私と室野智博医師、鴨山桂子看護師、三根達也看護師、渡部高史看護師、山崎悠ロジ*、新谷貴大ロジ* の計 7 名で九州に向けて出発しました。熊本への高速道路は普通車通行止めとなっており、他病院の DMAT と緊急車両のコンボイ (隊列を組んだ走行) を組んで合流で熊本に向かいました。隊員の中には初出隊となる者もいましたが、災害医療に従事する医療者としての責任感を胸に、任地である球磨村さくらドームに到着しました。球磨村では、豪雨被害により道路が寸断され孤立集落が多数あり、被災者が取り残されている状況でした。不安定な天候の中、晴れ間を見て、自衛隊機が飛行し、被災者を救出しさくらドームへ搬送してきている状況でした。しかし、さくらドームは、吹き曝しで座る場所もなく、救援物資が山積みになっており、通信インフラは衛星電話のみ、水道も出ない環境でした。まず、我々は行政の方々と協力し、行政機能、自衛隊、消防、警察の情報を集約化し、その機能を暫定的に運営できるように整備致しました。また、自衛隊がヘリ搬送してきた数百人単位の避難住民のトリアージおよび救命処置・搬送を行いました。天候も蒸し暑い日が続き、また、ゲリラ的な豪雨の中での活動でしたが、地域住民の必死に災害に立ち向かおうとする姿勢に強く心を打たれ、避難住民をより安全かつ急変を未然に防ぐべく診療にあたりました。また、今回の活動は、災害に加えてコロナ感染症にも配慮した活動も必要でありました。今後もその必要性は高まると思われる、新たな側面を含んだ活動でもありました。今回の活動を糧に、なお一層我々島根大学医学部附属病院 DMAT は強い志を持って災害活動を続けて参ります。

*ロジとは、ロジスティックの略称で、災害支援に出かけるスタッフに同伴する事務のことで、移動・衣食住・物品管理から材料調達に至るすべての環境を整える非常に重要な役割を担っています。





ご報告

PCR検査装置 GeneXpert システムが導入されました

COVID-19検査センター センター長 准教授 やの しょうぞう 矢野 彰三

新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」という。）の診断のため、全自動PCR装置 GeneXpert システム GX-XVI（ベックマンコールター）が導入されました。前処理検体を試薬カートリッジ（セフェイド）に注入するだけで、検体からウイルスRNAの抽出、逆転写反応（RT）、遺伝子増幅反応（PCR）を非常に短時間で実施します。しかも、一度に最大16検体まで処理できるため、人手をかけずに検査時間の大幅な短縮が可能になります。しかしながら、米国からわが国への試薬カートリッジの輸入数が非常に限られていることから、現在のところ、緊急時など限定的な稼働となっています。試薬カートリッジについては増産体制とのことですが、早期の試薬供給が待たれます。

当院では、手術前の患者や感染流行地域に出張した職員等を対象にPCR検査を行ってきました。さらに、9月より、COVID-19検査センターを中心に院外医療機関からの委受託検査を開始しています。このGeneXpertシステムGX-XVIが、ミュータスワークg1とともに早く活躍できるよう願っています。

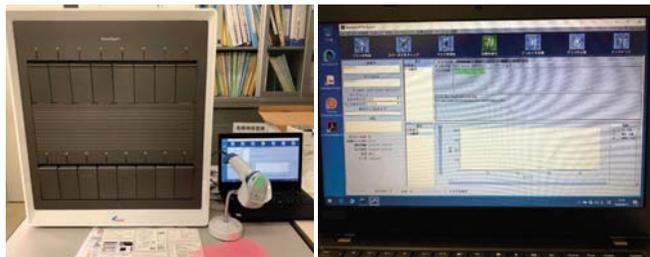


図1. 当院に導入されたGeneXpertシステムGX-XVI（ベックマンコールター）（左）リアルタイムPCR検査のモニター画面（右）



図2. SARS-CoV-2検出に用いる試薬カートリッジ（セフェイド）



ご報告

摂食嚥下支援チーム(SST)について

リハビリテーション科

入院患者さんの退院に大きく影響する因子には、「排泄機能の自律」と「摂食嚥下の状態」があります。摂食・嚥下障害のある患者さんの退院時のゴールとして、本人のみならず家族の多くが経口摂取の再獲得を希望されています。

2020年の診療報酬改定では、多職種チームによる摂食嚥下リハビリテーションが評価され、摂食機能療法への加算として「摂食嚥下支援加算」が設けられました（図1）。

その際の要件として、「摂食嚥下支援チーム」の設立が必要となりました。そこで、①歯科口腔外科医、②摂食・嚥下障害認定看護師、③言語聴覚士、④薬剤師、⑤管理栄養士、⑥歯科衛生士、⑦理学療法士、⑧リハビリテーション科医、からなる「摂食嚥下支援チーム」を結成しました。名称が長いこと、親しみをもっていただきたいことから、SST（Swallow Support Team）の略称を使用させていただきたいと思っております。患者さんの嚥下機能評価として、月に1度の嚥下造影検査（VF）または嚥下内視鏡検査（VE）が必要となります。VE実施に関しては、当院耳鼻咽喉科、歯科口腔外科からのご支援をいただき感謝しております。定期カンファレンスは毎週水曜日の午後に開催します。

口から食べることは、人生の楽しみや人の尊厳につながります。また誤嚥性肺炎は死因の第7位になっています（2017年度）。SSTのチームアプローチを通して患者さんのQOLを高めて参りたいと思っております。

多職種チームによる摂食嚥下リハビリテーションの評価

摂食機能療法の加算の見直し

➤ 摂食嚥下障害を有する患者に対する多職種チームによる効果的な介入が推進されるよう、摂食機能療法の経口摂取回復促進加算について要件及び評価を見直す。

現行	改定後
【摂食機能療法】 経口摂取回復促進加算1 185点 経口摂取回復促進加算2 20点 （治療開始日から6月を限度として摂食機能療法に加算）	【摂食機能療法】 摂食嚥下支援加算 200点 （週1回に限り摂食機能療法に加算）
【算定対象】 ・ 鼻腔栄養を実施している患者（加算1のみ） ・ 胃瘻を造設している患者	【算定対象】 ・ 摂食嚥下支援チームの対応によって摂食機能又は嚥下機能の回復が見込まれる患者
【算定要件】 ・ 内視鏡嚥下機能検査又は嚥下造影を実施（月1回以上） ・ 検査結果を踏まえ、多職種カンファレンスを実施（月1回以上） ・ カンファレンスの結果に基づき、リハビリテーション計画の見直し、嚥下調整食の見直しを実施	【算定要件】 ・ 摂食嚥下支援チームにより、内視鏡下嚥下機能検査又は嚥下造影の結果に基づいて、 摂食嚥下支援計画書を作成 ・ 内視鏡下嚥下機能検査又は嚥下造影を実施（月1回以上） ・ 検査結果を踏まえ、 チームカンファレンスを実施（週1回以上） ・ カンファレンスの結果に基づき、摂食嚥下支援計画書の見直し、嚥下調整食の見直し等を実施
【施設基準】 ・ 専従の常勤言語聴覚士 1名以上 ・ 加算1： 胃瘻新設の患者 2名以上 鼻腔栄養又は胃瘻の患者の経口摂取回復率 35%以上 ・ 加算2： 胃瘻の患者の経口摂取回復率 30%以上	【施設基準】 ・ 摂食嚥下支援チームを設置 <small>* 職種は、カンファレンスの参加が必須</small> ・ 専任の常勤医師又は常勤歯科医師 > 専任の栄養士 ・ 専任の常勤看護師（経験5年かつ研修終了） > 専任の常勤管理栄養士 ・ 専任の言語聴覚士 > 専任の歯科衛生士 ・ 専任の理学療法士又は作業療法士
	・ 入院時及び退院時の嚥下機能の評価等について報告

図1. 摂食嚥下療法の加算（厚労省HPから引用）





島大病院ニュース 2020年10月

ご報告



快適な通院・通勤環境を目指して ～キャンパス内への進入路整備について～

会計課施設管理室

島根大学医学部ではキャンパス全体で年次的な駐車場整備を立案し、順次整備を行っており、今年度は看護師宿舎南側に新たに職員用駐車場を整備する計画です。

また、駐車場整備だけでなく、昨年度はキャンパス南側進入路において道路拡幅等の整備も行いました。

この度の整備では、国際交流会館北側駐車場の一部を改修し、国際交流会館東門（今後は『**東横門**』という）よりキャンパス内への進入路を整備しました。

これにより、慢性的に交通渋滞をしていた出雲キャンパス東門部分の渋滞緩和が図られ、学生・教職員等が安全に通行できる環境が整いました。

今後出雲キャンパス全体の利便性や年々変化する社会状況を考慮した、駐車場を含む環境整備の実施・検討を行い、来院・来学される皆さんや学生・教職員がお互いに気持ちよく過ごせるよう、より快適な環境づくりを行ってまいります。



東横門より



駐車場より



2020年10月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2020年10月

ご報告



看護師特定行為研修、好評開催中

看護部 看護専門外来 副看護師長 いしかわ まりこ
石川 万里子

当院では、今年度から「看護師の特定行為研修」を開講し、6月から学習を始めています。2015年に「特定行為に係る看護師の研修制度」が開始されたことに伴う研修です。当院では、本研修を受講し特定行為を実施できることはもちろん、フィジカルアセスメントや臨床推論の能力を身につけ、臨床現場での医療・看護の質向上に役立つ人材育成を目指しています。共通科目 250 時間（その後区分別科目は 16 ～ 25 時間）を e-ラーニングと演習、実習で学習します。演習・実習は当院の医師から指導を受けています。現在フィジカルアセスメントを学習中ですが、テキストから飛び出し、臨床現場でよくある事例や経験した事例を話し合い、学習者の振り返りにアドバイスを頂いています。指導の先生方も熱心に学習者の意見を聞いてほめて認めてくださるので、緊張することなくのびのび発言・学習できています。事例による演習では、CT 撮影前に胸痛を訴えた患者さんを医師到着までに、何を待つか、どんな情報を得て報告するかなどを考え学びます。また実習では、聴診触診などを、シミュレーターを使用し呼吸音の実際を聴診、アセスメントや報告の仕方まで学んでいます。

「特定行為」を実際に行う際は医師との連携が更に必要で重要になります。その際のコミュニケーション方法についても指導を受け、実際の現場がイメージでき、更に学習意欲を高めることができます。すばらしい学習環境の中で特定行為研修を受けていますので、県内の看護師の皆さまに、ぜひ当院での特定行為研修に応募して頂き、ともに地域医療に貢献していきたいと思っております。



2020年10月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



難病診療の動向と難病総合治療センターの取り組み

難病総合治療センター センター長 教授 むらかわ ようこ 村川 洋子

島根大学医学部附属病院が難病拠点病院に指定され1年半が経過しました。

難病は1)発病の機構が明らかでなく、2)治療方法が確立していない、3)希少な疾患であって、4)長期の療養を必要とするもので、国の定める公費助成対象の特定疾患は人口の約0.1%程度に達しない希少疾患となります。診療科は非常に多分野にわたり、遺伝疾患、変性疾患、炎症疾患、内分泌疾患など多岐にわたります。厚生労働省の難病事業では各疾患の研究班が作られています。私の所属している研究班から類推しますと、今年度から本邦での難病研究を推進するため難病プラットフォームというレジストリー(患者登録)が立ち上げられ、希少疾患を多くの専門施設で登録し長期間経過観察する臨床研究が行われようとしています。

当院の難病総合治療センターでは検査部/小児科が多くの先天疾患診断のための検査を行い、全国の患者さんや子供の検査も受けています。薬剤部の協力を得て、炎症性腸疾患や膠原病の患者さんの薬剤指導も行っていきます。また、産科と連携し、ハイリスク妊娠の対象となる患者さんの妊娠前からの密な連携およびコントロールも引き続き行って参ります(プレグナンシーボード)。

前述のように難病は長期の療養が必要とされますが、小児の成人診療科の移行が問題点として挙げられており、移行期医療への取り組みを小児科 竹谷教授を中心に着手し始めています。移行期医療は、小児科のように1人の医師による包括的な診療から大病院においては成人は分科別専門科の複数科の受診が必要になることもあり、成長を覗いてくれた医療者との離別など心のケアの問題など重要な問題があり、コーディネーターの設置が重要になります。島根県とお話させていただいていますが、予算の関係から前途多難なようです。また、難病拠点病院要件であるセンター窓口の設置も予算の関係から実現していません。移行期医療および難病総合治療センターの窓口の設置について関係機関と地道な交渉を続けて参りたいと思います。窓口設置は実現していませんが、医療サービス課で引き続き、患者相談やハローワークへの紹介など行っています。ご利用いただけたらと思います。



お知らせ

アレルギー疾患の対応に関する研修・啓発を行っています

アレルギーセンター センター長 教授 もりた えいしん 森田 栄伸

国民の多くが何らかのアレルギー疾患に罹患し、それにより生活の質が著しく損なわれていることが指摘されており、その対応のため2014年6月アレルギー対策基本法が公布されました。この法律のもと、アレルギー疾患の予防と症状の軽減のため知識の普及とアレルギー疾患医療の均てん化が進められています。当院では2017年4月にアレルギーセンターを設置し、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、呼吸器内科、消化器内科、眼科を中心に救命救急センター、栄養治療部、看護部、薬剤部などが協力して、総合的な診療体制を築いています。2019年には島根県のアレルギー疾患医療拠点病院に指定され、島根県と協力して、島根県内のアレルギー疾患診療レベルの向上、県民の皆様へのアレルギー疾患に関する知識の普及活動を行って参りました。

今年度は、島根県と協力してアレルギー疾患対応に関する専門職向け研修の一環として、島根県の動画配信サイト(YouTube/しまねっこCH)を利用した

研修動画配信を準備しています。医療従事者を対象として、(1)ぜん息、(2)花粉症、(3)アトピー性皮膚炎、(4)食物アレルギー、(5)小児のアレルギー、をテーマとした学習資料を配信する予定です(10月配信予定)。

また、当センターが島根県と協力して一般市民を対象に毎年行っている公開講座「しまねこどものアレルギーセミナー」は、今年は10月4日(日)に出雲市民会館にて実施予定です。子供の食物アレルギー、アトピー性皮膚炎についてわかりやすくお話しします。詳細は右上のポスターをご参照ください。県民の皆様のご参加をお待ちしています。

しまね
こどものアレルギーセミナー

第6回
テーマ
こどもの食物アレルギー、アトピー性皮膚炎

2020年
10月4日 日 14:00-16:00

出雲市民会館 301号室
島根県出雲市市場治有原町2丁目15番地

無料 予約不要 託児事前申込み先着6名(9月11日締切)

司会: 竹谷 健 (島根大学医学部小児科 教授)

第1部 14:00~14:30
「食物アレルギーの基礎知識」
羽根田 泰宏 (松江赤十字病院小児科/島根大学医学部小児科)

第2部 14:30~15:00
「アトピー性皮膚炎の最新情報」
金子 栄 (島根大学医学部皮膚科 准教授)

第3部 15:00~15:30
「食物アレルギーとアトピー性皮膚炎の関係」
森田 栄伸 (島根大学医学部皮膚科 教授)

※ 15:30~16:00 個別相談
お気軽にご参加ください

新型コロナウイルス対策に関するお願い
会場では、マスクの着用をお願いいたします
- 流行状況により、やむを得ず延期・中止になる場合があります

主催 島根大学医学部附属病院アレルギーセンター、島根県
島根県健康福祉部健康推進課(担当: 林)
*TEL 0852-22-5266
*E-mail hayashi-hazuki@pref.shimane.lg.jp

託児申込み・お問い合わせ





島大病院ニュース 2020年10月

ご報告

右側開胸アプローチによる 心房中隔欠損閉鎖手術はじめました

小児心臓外科 講師 なかた ともひろ
中田 朋宏

心房中隔欠損症という、左心房と右心房の間に穴が開いた先天性心疾患に対する手術は、人工心臓を使用して、心停止を行ってから右心房を切開し、穴を閉鎖します。

当科では従来まで、手術のアプローチとして、「皮膚小切開、胸骨部分切開」という、胸の中央に創をおく方法を行ってきました。しかしながら創部をより目立ちにくくするため、右側開胸アプローチにより手術を行う方法があります。小児科の先生方、患者さんやご家族のご要望もあり、当科では2019年より、必要な手術器具類や体制の準備を進めて参りました。このたび、2020年7月に右側開胸アプローチによる心房中隔欠損閉鎖手術の第1例目を行いました。写真は、ご家族にご了解を得て撮影した、術後2ヶ月目の外来でのものですが、「気をつけ」の姿勢では、創部はほぼ隠れていることがお判りいただけるかと思ます。

「皮膚小切開、胸骨部分切開」の従来のやり方は、体重10～25kg位のお子さんが対象となりますが、この「右側開胸アプローチ」のやり方は、手術の最中に左の肺を押さえ込む必要があり、「分離肺換気」という特殊な人工呼吸を行いますので、体重は15～25kg位のお子さんが対象となります。

ご希望される患者さんがおられましたら、是非当科外来へお問い合わせ下さい。「胸骨部分切開」と「右側開胸」、それぞれの特徴や、利点欠点などをお聞き頂き、選択して頂けたらと思います。



問合せ先 小児科外来・小児心臓外科外来 TEL:0853-20-2383



2020年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2069 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2020年10月

ご案内



PET/CT検査の予約受付を開始しました

医療サービス課

当院では、8月中旬に最先端機器である半導体PET/CT装置を導入し、9月から当院の患者さんを対象として検査を行っておりましたが、この度、地域医療機関からのPET/CT検査の予約受付を開始しましたのでお知らせ致します。

PET/CT検査のご予約をお待ちしております。

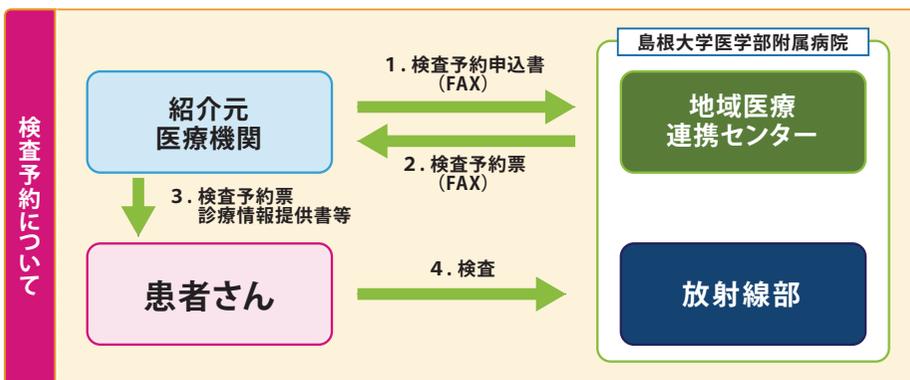
ご予約方法

まずは、地域医療連携センターホームページ(下記URL)にあります「PET/CT検査を依頼される先生方へ(PDF)」をお読み頂いた上で、「PET/CT検査予約申込書」に必要事項をご記入の上、地域医療連携センターへFAXをお願いします。

URL: <https://www.med.shimane-u.ac.jp/RMCC/area/appointments.html>

※地域医療連携センターホームページ>地域医療機関の方へ>診療予約

地域医療連携センター TEL: 0853-20-2061 FAX: 0853-20-2063



※PET/CT検査予約申込書は裏面にございます。

裏面あり



2020年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2069 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



